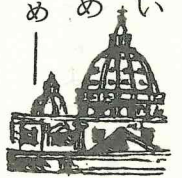


教会の教導に従い
中庸を歩め



—— パパ様のいましめ ——

10月9日のキリスト新聞の第一面に、「分裂危機はらむバチカン」と題して、ルフェーブル大司教の分派行動がとり上げられて報道されている。教皇パウロ六世から、ミサの執行権停止と、司祭の叙任権停止処分をうけているフランスのマルセル・ルフェーブル大司教が、リル市で六千人を集めてミサを執行し、スイスのエユナで十三人を叙階し、ヨーロッパでその同調者も増えているというもの。

ルフェーブル大司教一派の言い分は、バチカン公会議の決定とその教導は教会を墮落させるものであり、自分たちは、公会議以前の悪い影響をうけていない伝統的なカトリック教会の信仰・実践・教会法を擁護するものである、としている。そしてトレント公会議の決定により、ピオ五世教皇が決めたラテン語ミサを唱導して、それを機会に、公会議以前

の教会の在り方をとりもどそうとしている。

このような動きに対して、パウロ六世は度々、ル大司教に書簡を送って翻意を促している。そして、枢機卿会議の演説でこう言われた。

「自分たちは、より一層教会とその教導職に忠実である、という言い分の下に、公会議にも、その刷新によって示された指針にも従わない人がいる。その人々は、第二バチカン公会議の決定に、自分たちは従う義務はないとしている。伝統は、公会議後の指針や刷新によって危険にさらされている、と言う。確かな伝統を守るために、これらの決定に従ってはならないとしている。

しかし、伝統とは何を指しているのか？ たくさんある伝統の中で、この伝統は正しいとか、正しくないとか決めるのは、その人々であって教皇でも、司教会議でもないというのか？ 特に、キリストの愛において一つとなるべきミサ典礼の執行分野においてまで分派行動を起こすことは、由々しいことである。

新しい典礼に則ってミサを行なう



市民クリスマス—宮城テレビ

12月17日（金）午後6時から30分番組で、「テレビ市民クリスマス」が放映される。仙台YBUが宮城テレビと協力して行なうもので、一般の方にクリスマススの精神を知らせようという企画から生まれたもの。

小百合園児のキャンドルサービス、宮城学院高校生のハンド・ベルによる聖歌演奏、同学院ナンデイス女史の人形劇、小林司教の講話、小百合高校生の聖歌グローリア等がプログラムに組み込まれている。

ことは、司祭や信徒の自由選択にまかされていることではない。一九七一年六月十四日に発布された教令によって、古い型のミサの挙行を許されているのは、老司祭か病人司祭が、その地の司教の許可の下に、一人でミサをささげる場合だけである。

新しい典礼によるミサのやり方はバチカン公会議の決定に基づき、慎重な熟慮の結果、私にゆだねられた教皇権をもって決定したもので、か

つてピオ五世教皇が、トレント公会議の決定に基づいてその教皇権をも

司教様の日程

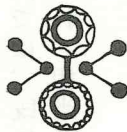
(12月9日現在)

- 12月12日 大湊教会祝別
- 12月17日 財団法人スベルマン病院 理事会
- 12月24日 クリスマス深夜ミサ(元寺小路司教座聖堂)
- 12月30日 聖ウルスラ会、来日40年記念ミサ(一本杉修院)
- 1月1日 元且ミサ 午前八時(元寺小路司教座聖堂)
- 1月7日 聖ライムンドの祝日 佐藤司教修道名の祝日
- (聖ライムンドの祝日は昭和51年には1月23日であったが、日本の教会暦が52年に暫定暦から一般暦に変わるにともない、1月7日に移動した。)
- 1月10日~14日 幼稚園会計研修会 (盛岡、繋)
- 1月20日 社会福祉法人カトリック 児童福祉会理事会(司教館)

って刷新されたミサ執行を義務づけたのと、全く同じである：：と。仙台司教区内にも、ピオ五世教皇制定のラテン語ミサをしきりに唱導し、それでなければミサではないかのように主張している人がいる。私たちは、それらの言動に惑わされ、踊らされることなく、主キリストが「私は世の終わりまであなた方と共に居る」と言われた教会の教導に従い、中庸の道を歩むことにより生命を生かすようにつとめよう。

形がい化した伝統に縛られてしまうと、躍動する生命は働かない。又一方、無秩序に行きすぎてしまっても、在るべき生命を失ってしまふ。公会議の卓越した教えを生かすのは、私たちの仕事である。

司教牧杖成る



先に、司教座聖堂の司教紋章を完成した翁ひろみ氏(「たより」5号参照)の手によって、この程、司教の牧杖が出来上がった。

素材は、「めでたい」意味を持つえん樹(えんじゅう)の木が用いられ、木膚に、わずかに金粉をまぶし、おごそかの中にも一見仙人の杖をおもわせる渋みがある。

金属を用いるのが普通の教会の慣例を破って、木の牧杖は、おそらく日本で初めてのことであり、丸い紋章と合わせて、特色を示している。

ミニ情報



★ 宮城県信徒大会

毎年恒例となった宮城県信徒大会が、10月31日、白百合学園を会場に行なわれた。仙塩地区教会代表者合同会議が主催したもの。今年も、講演、共唱ミサを主としたものとし、講演には、佐藤司教が、「神の国は実にあなた方の中にある」と題して実生活に結びついた話をされた。講演中は、仙塩地区教師の会の指導の下に、幼児・小学生は別室で映画や

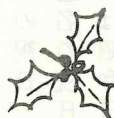
お話をきき、又、中学生・高校生は各々分科会をもって話し合いがなされた。

後、約三百名の参加者の共唱ミサがささげられ、当日の献金は酒田大火の義捐金として、即日、新潟司教区事務所に送金された。

(合同会議書記投稿参照)

★ 共助組合発足

(白河教会)



白河教会では、10月31日、日本共助組合連合会会長ラ・フォント師を招き設立総会を開いたが、福島県下初の共助組合として発足した。

組合員数現在46名、出資金七九万八千円(設立時)、同組合の入会資格は、白河・須賀川教会に属する信徒及び求道者、教会に属する団体、信徒の家族、幼稚園の教職員、となっている。

共助組合は、組合員がお互いにお金を出し合い、そうして集められた出資金を便宜に貸し出し、助け合う組織である。しかし、慈善事業ではないから、施しや、あわれみを期待すべきものでなく、また、営利事業

でもないから、組合がこれにより利潤を目的とするものでもない。あくまでも、キリストの愛の精神に則って、お互いに共に助け合うのを目的としたもの。仙台教区内では、既にいくつかの教会で行なわれ、相当の成果を上げている。

(白河共助組合通信参照)

★ 荘厳誓願宣立

仙台豊屋町教会出身、和田初見姉は11月1日、諸聖人の祝日に、シトI会トラピスチン那須修道院で荘厳誓願を宣立した。修道名マリア・ゴレティ。受洗は昭和37年4月21日。

★ 修道院落成

(シャルトル聖パウロ会)

今年の2月着工した聖パウロ会仙台修道院の新築工事は、10月完成。11月3日、佐藤司教の手によって祝別された。

建物は、鉄筋コンクリート3階建床面積三七八・八平方メートル。一階に聖堂、客室、集會室、台所、食堂を備え、二階、三階は個室になっ

ている。淡いクリーム色のしゅしゅな建物は、白百合学園の校舎とよくマッチして、清そである。

★ 教区司祭団

黙想会

11月8日から12日までの4泊5日邦人司祭第一グループの9名は、函館トラピスト大修道院で年の黙想を行なった。指導司祭は東京教区司祭沢田和夫師。函館はもと仙台司教区に属し、この地にかかわりをもった司祭も多かったので、旧懐の情、環境の素晴らしさ、指導者のよい説教と相俟って楽しい黙想会になった。

第二グループは二月下旬、同じトラピスト大修道院で行なう予定。

★ モンテッソーリ

教育 講演会



日本モンテッソーリ協会東北支部(支部長・鷹野達衛師)主催になる講演会が11月14日、仙台白百合学園幼稚園において開かれた。講師は、東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター主任の松本静子女史。同協会支部会員(幼稚園教諭)約70名

が参集。午前は講演、午後は質疑応答を通して、幼児教育について有意義な話し合いを持った。

★ 仙台司教区

修女連院長研修会

第三回、教区修女連院長研修会が11月17日-19日まで、松島松仙閣で25名の院長が参集して行なわれた。「出る釘は打たれる」をテーマにして、佐藤司教の指導の下に、変遷する世相の中で、教育・社会事業を通じて使徒職を果たす修道女の共同体の院長職の在り方、生き方を追究した。(修女連書記投稿参照)

★ 安井師

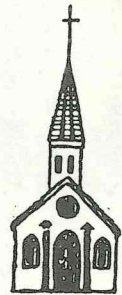
証聖補佐官に



サレジオ会、チマッテイ師(昭和40年10月6日帰天)の列福調査開始に当たって、11月26日、調布のサレジオ神学院において、調査官の任命式が行なわれたが、東京在住の仙台司教区司祭安井光雄師(上智大教授)は、証聖補佐官に任命された。師の仕事は、裁判官の判断の資料を整理提出する検事に似た仕事である。

大湊教会祝別式

(12月12日)

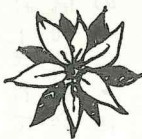


昨年の9月21日に焼失した大湊教会については、全教区民の協力の下に再建計画が進められていたが、再建工事は順調に進み、12月12日、落成、佐藤司教の司式により祝別式を挙行する運びとなった。

これは全教区民の惜しみない醸金の賜である。ローマ教皇も、再建資金の一部にと、八千ドル(二三一万二千元)を寄せられた。

幼稚園会計

研修会開催



来る1月10日から14日まで、四泊五日をかけて、岩手県繋温泉、愛真館で会計研修会を開きます。園長、主任司祭の参加研修をお勤めします。研修内容は、直接には学校会計基準に基づいた決算報告のつくり方です

が、自分の専門でない会計、関係事業の会計や、教会財産管理上の会計に携わる聖職者のために、特に復式簿記の原理、資金収支計算、消費収支計算、貸借対照表等の理解に力を注ぎます。講師は、木原康宏氏(公認会計士)、教え方が上手、という定評のある方です。教育事業、施設、修道会の方で、初歩から会計の勉強を望まれる方も、どうぞお申し込み下さい。費用は、宿泊、食費、講習費、資料代一切を含めて金参万円で申し込み先

カトリック仙台司教区事務所

吉田昌民神父

ベトレヘム外国宣教会本部

ヨハネ・シュルテンベルグ神父

これでよいのか?

援助金と献金が示す

その差額

毎年、仙台司教区は、布教聖省管轄の信仰弘布会から、相当額の援助金を頂いている。今年も千六百円を受領したが、その内訳は次の通り

である。

仙台司教区へ 七五一四〇〇〇円
カテキスタ援助金

一八七八五〇〇円

ウルスラ修道会

修練女養成費補助八六七〇〇円

大湊教会再建補助

二三一〇〇〇円

宣教(修道)会援助

四三三五〇〇円

合計

一六一二六二〇〇円

しかし、仙台司教区に働く司祭の数は7名、カテキスタ24名、教会、分教会数は73を数え、これらの教会

V V V V V

V V V V V V V V V V V

V V V V V

ラジオ『聖書講座』(青森)

11月14日から毎日曜日、午前8時15分から10分間、青森放送ラジオで32回連続の『聖書講座』が放送されている。教区長辞任後、米川教会司牧のかたわら、日本司教協議会の、「要理教育」を担当される小林有方司教が執筆・編さんの、一般向き要理を、テストケースとされるものである。

を維持し、布教司牧活動を続けてゆくためには相当の費用を要し、昨年度の教会会計決算報告によると、運営費、人件費の通常経費の総額は、一一九四八五七九円(これには司教館経費、教区事務所経費、各宣教(修道)会本部経費は計上されていない)となっており、信仰弘布会からの援助金は通常経費の一三・四%にしかなっていない。

又、こうして送られてくる援助金は、全世界の信徒の「布教の日献金」の総額の中から送られてくるのであるが、仙台司教区が「布教の日」の献金として信仰弘布会に送金した額は、昨年度は47万、今年度は52万でしかなかった。この金額の差が示す現実を、私たちはどのように受け止

【事務連絡】

◎事務所休業(12月29日ー1月8日)
カトリック仙台司教区事務所は、12月29日から翌年1月8日まで、年末年始の休業に入ります。御了承下さい。
緊急の用事の方は、御遠慮なく、いつでも
〇二二二一五六一四九六五(司教館)に、御連絡下さい。

めるべきだろうか(なお、同報告の仙台司教区の維持費、献金を含めた総収入は七九五一三〇〇四円で、これは通常経費支出の66%に当る)

小湊カトリック幼稚園

ついに廃園に!



5歳児22名、4歳児11名、3歳児5名、計38名。これが昭和51年度の小湊カトリック幼稚園の在籍児総数である。毎年毎年赤字ながら、地域住民への奉仕の精神から、園長(浪打兼任ラ・ポア師)無給でガンバッテ来た小湊幼稚園は、ここ10年の在籍児数40名を割る入園児不足では、これ以上経営を続けてゆくことが出来ず廃園することに踏み切った。11月30日、青森県教育庁に廃園認可申請書を提出。3月31日付をもって、19年の歴史を閉じることになった。

.....
仙台司教区事務所だより第7号
昭和五十一年十二月十五日発行
発行所 仙台司教区事務所
〒980仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371